

## 平成 30 年度 事業報告書

当会が平成30年4月から平成31年3月までに実施した事業についてご報告いたします。潤いのある地域環境づくりに向けて、一般市民や行政の方々と共に、桜の名所づくりや花のまちづくりなどの事業を展開いたしました。

### (1) 桜苗木の生産・配布による桜の名所づくりや桜苗木の受託生産と育苗、花や緑を活かした花のまちづくりなどの推進

#### 1) 桜の名所づくり

##### ～桜苗木の生産と配布～

桜を中心とした、美しく潤いのある地域環境づくりの推進を目的に、桜苗木の生産と配布を継続実施し、地元行政や地域住民と一体となった新しい桜の名所づくりを進めました。特に桜苗木の配布に当っては、植栽面積や植栽間隔が充分確保されているか、植栽後の維持・管理体制が明確化されているか、などについて確認した上で実施しました。

##### ～さくらコンシェルジュ～

新しい桜の名所をつくりたい、自分達で植栽した桜を健全に育て新しい名所にしたい、あるいは既存の桜の名所を守り後世に伝えたい、といった地域住民団体等の要望に積極的に応えるため、当会研究員を計画的に現地へ派遣しました。福島県福島市、埼玉県久喜市、千葉県鋸南町などにおいて、桜の名所の創成、育成、再生・保全を目的として、住民団体の皆さんと共に活動を展開しました。

##### ～桜を通じた震災復興支援～

桜を通じた震災復興支援は8年目となりました。今年度は、宮城県や福島県などに接木1年生苗木132本をお届けしました。これにより被災地にお届けした桜の苗木は累計で5,780本となりました。

宮城県名取市では、津波を受けた桜の接木による後継樹を“復興桜”と呼んでいますが、地元の農業生産法人に対して“復興桜”の接木による増殖と育苗管理について指導しています。この苗木は津波で甚大な被害を蒙った名取川河口堤防に順次植栽されています。

宮城県岩沼市では、岩沼市二野倉公園において岩沼市と宮城県立農業高校が協働で進めている桜広場整備事業に対して、1年生苗木を提供するとともに、植樹や育成指導を実施しました。

宮城県女川町での植栽は今回が4回目となりました。10月に新庁舎周辺に住民10名と職員数名が参加して大漁桜を19本植栽しました。また、39世帯が新生活を始めた尾浦浜地区では、6名の地区住民が参加して10本を植栽しました。

## 2) 花のまちづくり

花や緑を活かした地域環境づくりに関する委託を受けて、地域の美しい環境づくりへの提言を行いました。

山口県上関町では、「花咲く海の町・上関」推進委託事業を継続して受託しました。地元住民の方々を対象とした草花の植栽指導や花壇の管理運営方法についての指導、花壇用の花苗を生産する地元農家に対する技術指導などを実施しました。

## (2) 桜の名所づくりや花のまちづくりに関する講師派遣や講座・シンポジウム等の開催

### 1) 講師派遣

地方自治体や住民団体等が開催する桜の講習会や勉強会に、研究員を講師として派遣しました。

桜に関する講演では、幸手市権現堂桜堤保存会（埼玉県）、さがみはら地域づくり大学（神奈川県）、NPO法人小金井桜を復活する会（東京都）など、延べ70回・3,256人を対象に桜の管理・保全方法や、病虫害対策、整枝剪定、施肥などについて指導を行いました。

また、花のまちづくりに関する講演会や勉強会にも研究員を積極的に派遣して普及啓発を図りました。静岡県藤枝市、東京都港区、静岡県熱海市など、延べ8回・650人を対象に花壇づくりや花のまちづくりについて講義を行いました。

### 2) 桜の保全・管理に関する普及啓発

#### ～サクラ保全管理講座の開催～

桜の樹勢回復の方法や病虫害対策などの技術的・科学的分野と、桜に関する文化的・社会的な分野についての講座を「第16回サクラ保全管理講座」として11月7日に東京都千代田区にある日比谷図書文化館で開催しました。

今年度は、「絵図にみる江戸の桜文化」を（公財）園芸文化協会会長の小笠原左衛門尉亮軒氏に、「地域住民と進めてきた桜淵公園の再生と新たな桜の名所づくり」を日本花の会桜の名所づくりアドバイザーの松井章泰氏に、そして「弘前公園のソメイヨシノ～高齢木における樹勢回復の試み～」を青森県弘前市公園緑地課の樹木医である橋場真紀子氏に、それぞれ講義していただきました。

会場には全国各地から集まった樹木医や桜の保全活動を進める住民団体の代表な



ど過去最高の 162 名が参加して活発な質疑応答が行われました。

#### ～全国さくらシンポジウムの開催～

第 37 回全国さくらシンポジウムを 4 月 12、13 日に新潟県上越市で開催しました。会場の高田公園オーレンプラザには、全国各地から集まった 520 名の入場者で満席となりました。

開会挨拶のあと、地元出身の三遊亭白鳥氏が「笑顔が満開 高田公園の桜と私」と題した記念講演があり、その独特の語り口調と内容で観客を沸かせました。その後、「100 年先も元気な桜のもとで」をテーマとしたパネルディスカッションが催されました。パネリストとして上越観光コンベンション協会、エコ・グリーン、上越教育大学附属中学校の 3 団体の代表者がそれぞれの立場で次世代に桜を引き継ぐことの重要性や方法論などを議論しました。

翌日の現地見学会では 157 名の参加者が高田公園や地元の桜の名所を見学して廻りました。

#### ～「学び舎の桜を救おう！」プロジェクト～

小学校に植栽されている桜に関心を持ってもらい、樹勢の衰えた桜を助ける授業を継続実施しました。

2012 年から桜授業を継続実施している埼玉県日高市の小学校では、4 年生 5 クラス約 200 名の児童を対象に、樹高・枝張り・幹周の計測などを実施するとともに、桜の病虫害について授業を行いました。

福井県福井市の小学校では、5 年生の総合学習で「桜プロジェクト」を実施しました。桜の保全についての授業や、花数調査や害虫の観察、施肥、ひこばえ剪定などを実施したほか、3 月には児童が桜について 1 年間調査した内容を纏めて発表しました。

### 3) 花のまちづくり運動の普及啓発

#### ～全国花のまちづくりコンクールの実施～

「第 28 回全国花のまちづくりコンクール」の事務局として、コンクールの質的充実を図ると同時に効率的な運営に努めました。

今回の応募総数は 1,667 件で、大臣賞を始め 80 件が表彰されました。受賞者は、花のまちづくり大賞の農林水産大臣賞に、長岡市立山本中学校（新潟県長岡市）とまちづくり宮ノ下地区委員会（福井県福井市）、国土交通大臣賞には十文字環境美化を考える会（秋田県横手市）と長池オアシス管理会（大阪府熊取町）が選出されました。

また優秀賞にはF・C ボランティア（神奈川県相模原市）など 10 件が、奨励賞には手嶋眞二（山口県下関市）など 11 件が選ばれました。さらに入選が 52 件、努力賞が 3 件選出されています。

表彰式は 10 月 25 日に東京都千代田区の東海大学校友会館で行われました。受賞者を含めて 103 名の方が参加し、農林水産省大臣官房生産振興審議官の菱沼義久様と国土交通省大臣官房審議官の長井俊彦様より大臣賞が授与されたほか、優秀賞、奨励賞などの受賞者もそれぞれ表彰されました。

#### ～花のまちづくり優秀事例発表会の開催～

10 月 24 日に東京都千代田区の日比谷図書文化館において、第 28 回全国花のまちづくりコンクールで大臣賞を受賞された皆さんに、日頃の活動内容について写真や動画を交えて発表していただきました。

花のまちづくりスキルアップ講座では、千葉大学名誉教授でガーデンそよかぜ園主である安藤敏夫氏から「花の育種…私流」をテーマとしたご講演をいただきました。

#### ～全国花のまちづくり中之条大会の開催～

地方での花のまちづくりの普及啓発を目的とした全国花のまちづくり地方大会を 7 月 21 日～23 日に群馬県中之条町で開催しました。地方大会としては 24 回目であり、群馬県では 2 回目の開催となります。

大会テーマは「花と湯の町なかのじょう 交流・学び・憩いのまちづくり」。第 22 回全国花のまちづくりコンクールで大賞を受賞した埼玉県深谷市と NPO 法人鼻高町をきれいにする会（群馬県高崎市）、および主催自治体である地元の中之条町が事例発表しました。

会場のバイテック文化ホールにはおよそ 750 名の方が入場し、発表を熱心に聴講されました。また、著名人を交えたパネルディスカッションでは、中之条町における花のまちづくりの方向性や可能性について、貴重な提言を数多く提案していただきました。現地見学会には 70 名が参加して、オープンガーデンや中之条ガーデンズなど、町内の花とみどりを巡るコースを見学しました。

#### ～「こまつの杜」（石川県小松市）での花育～

石川県小松市にある「こまつの杜」において、コマツ OB 社員の方々と結成された NPO 法人みどりのこまつスクスク会の皆さんや、「わくわくコマツ館」のスタッフと一緒に、小松市内の白嶺幼稚園と大和こども園の園児計約 100 名を対象に花育を実施



しました。

2015年度から開始した花育も4年目となりました。研究員の指導の下、園児たちにコマツのOB/OGの皆さんがお手伝いする形で、種まきから鉢上げ、花壇づくりなどを一緒に実施しました。また卒園式の前には桜のコサージュを造り、自分達の胸に飾って晴れの卒園式を迎えました。

#### 4) 屋上緑化

都市部のヒートアイランド現象の緩和策として注目されているビル屋上の緑化について、コマツビル屋上庭園の維持管理と一般公開を継続して実施しました。また屋上緑化の先進事例としての情報発信と普及啓発に努めました。2018年度の入場者数は昨年度より20名多い400名でした。

### (3) 桜の品種特性や樹勢回復についての研究、組織培養による苗木生産の研究、桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導

#### 1) 自主研究事業

～桜の品種特性に関する調査研究～

桜見本園で収集保存している桜の花の形状など、品種特性の画像データ化とその蓄積を進めました。

～桜の樹勢回復に関する試験研究～

結城農場の桜見本園の桜について、樹勢回復に関する試験研究を継続し、全国各地の桜の保全についての技術力を高めました。

～組織培養による桜苗木生産に関する試験研究～

接木生産に代わる技術として組織培養（メリクロン）による桜苗木生産の研究を継続的に進め、生産技術の確立を目指しました。

#### 2) 受託研究事業

～桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導～

桜の樹勢回復に関する事業の委託を自治体等から受けて調査研究を行い、病害虫の駆除や枯れ枝の剪定、施肥など、桜老齡樹の樹勢回復の指導と提言を行いました。

- ・ 須坂市（長野県）……………臥竜公園の桜樹勢回復
- ・ 幸手市（埼玉県）……………権現堂堤の桜樹勢回復
- ・ 富士吉田市（山梨県）…新倉山浅間公園の桜樹勢回復

## 会員活動の支援について

全国 30 ヶ所の地方会員組織のメンバーは、桜の名所づくりや桜の保護活動、花のまちづくり活動などを積極的に行っています。当会研究員が各地に赴き技術的なサポートを行っただけでなく、7月5、6日には全国から21団体36名の会員に集まってもらい、活動報告と情報交換を実施して交流を深めました。

期末会員数（平成31年3月31日現在）

法人会員：268      個人会員：1,533      合計：1,801

以上